

福岡県の水道

平成23年度



大山ダム（湖名：烏宿湖（うしゅくこ））

福 岡 県

【表紙の説明】

大山ダムは、洪水の調節、既得取水の安定化・河川環境の保全、新規利水の開発の目的のために建設されたダムであり、昭和 54 年から予備調査が開始され、平成 25 年 4 月から供用開始されます。

水道用水については、大山ダムの建設により、久留米市瀬の下地点において新たに 113,000 m³/日を開発し、福岡県南広域水道企業団で 61,000 m³/日、福岡地区水道企業団で 52,000m³/日の取水を可能としています。

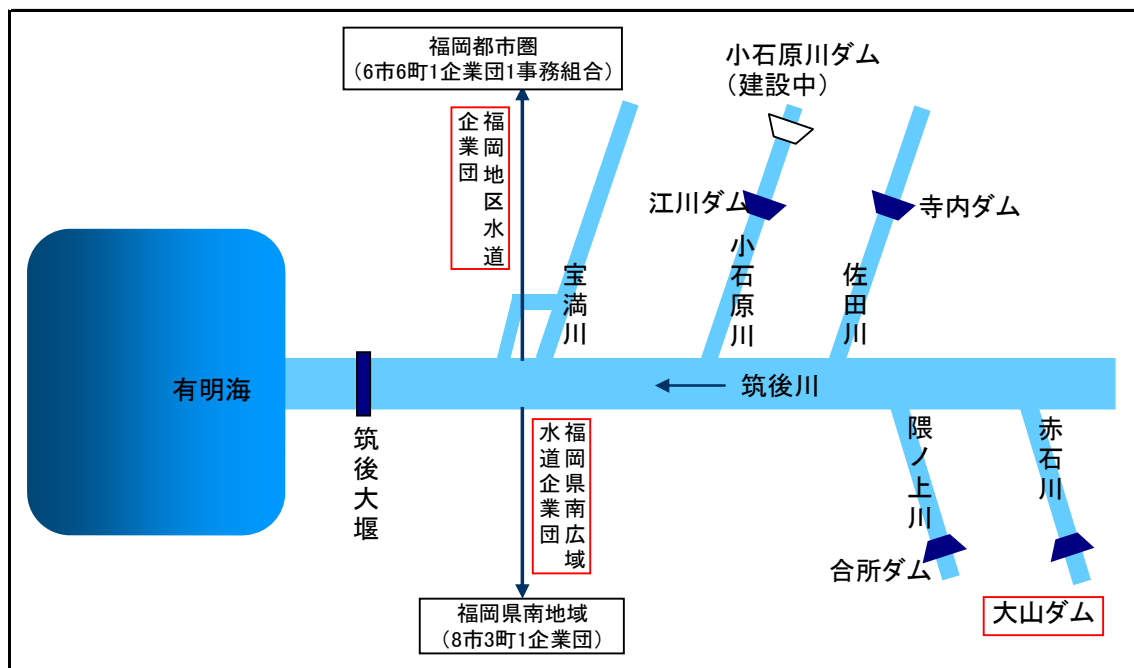
113,000m³/日は、1 人 1 日の水使用量を 350 リットルとすると、約 32 万人分に相当します。

【ダムの諸元】

位	置	大分県日田市大山町西大山地先
型	式	重力式コンクリートダム
堤	高	94m
堤	頂	長 370m
堤	体	積 約580, 000m ³
	非越流部標高(堤頂)	EL. 264. 0m

【貯水池の諸元】

集水面積	33. 6km ²
湛水面積	0. 6km ²
総貯水容量	約19, 600, 000m ³
有効貯水容量	約18, 000, 000m ³
サーチャージ水位	EL. 259. 0m
常時満水位	EL. 245. 0m



はじめに

水道は、県民の健康で文化的な生活や社会経済活動に欠くことのできない最も重要な社会基盤のひとつであり、安全・安心な水の安定供給を継続する必要があります。

本県の平成24年3月31日における水道の現状は、水道普及率が93.4%と、年々向上しているところですが、全国平均の97.6%と比較して4.2ポイント低く、いまだに約33万5千人の県民のみなさんが水道を利用できない状況にあります。

また、これまで比較的豊富とされてきた地下水についても、水質の悪化や水量の低下等が懸念されており、現在建設・計画中の新たな水道水源の確保が急がれるところです。

このような状況の中、今後水道水の安定供給を図るには、経営基盤の強化や老朽化した施設の更新及び耐震化など取り組まなければならない課題が山積しています。

平成24年7月には、九州北部豪雨等により県内の水道施設が被害を受けました。特に、八女市内においては、配水管の破損等により断水被害が広域に生じましたが、県の調整の下、県内の水道事業者等により応急給水が実施され、改めて災害時における給水体制の重要性が再認識されたところです。

県といたしましては、今後とも県内の水道事業者等と連携を図りながら、これらの課題解決に向け、水道の広域化を柱とした水道行政を推進して参ります。

関係各位におかれましては、県民のみなさんに安全・安心な水道水の安定供給を継続できる水道を目指し、今後一層のご協力とご尽力をお願いします。

本書は厚生労働省の「平成23年度水道統計調査」をもとに、県下の水道事業の現状を取りまとめたものです。ご協力いただきました水道事業者等各位に対し厚くお礼申し上げます。

本書が多くの方のみなさまに活用され、本県における水道事業についてのご理解の一助になれば幸いです。

平成25年3月

福岡県県土整備部水資源対策長 小島 英二

凡例

● 収録の範囲	本資料は厚生労働省が実施した「平成23年度水道統計調査」を基礎とし、一部をその他の資料で補充した。	
● 収録の対象	平成24年3月31日までに、認可等を受けた水道用水供給事業、上水道事業、簡易水道事業及び専用水道。	
● 水道の区分	(1) 水道用水供給事業	水道事業体に対して水道用水（浄水）を供給する事業。 ただし、水道事業者又は専用水道の設置者が、他の水道事業に分水する場合を除く。
	(2) 上水道事業	一般の需要に応じて水道により水を供給する事業で、計画給水人口が5,001人以上のもの。
	(3) 簡易水道事業	一般の需要に応じて水道により水を供給する事業で、計画給水人口が101人以上5,000人以下のもの。
	(4) 専用水道	寄宿舍・社宅・療養所等で、次に掲げるもの。 ア 自己水源を水源とするものであって、100人を超える者にその居住に必要な水を供給するもの、又は一日最大給水量が20m ³ を超えるもの。 イ 水道事業体から供給を受ける水のみを水源とし、地中又は地表に施設された口径25mm以上の導管の全長が1,500mを超え、又は、地中又は地表に施設された水槽の有効容量の合計が100m ³ を超えるもの。
	(5) 簡易専用水道	水道事業体から供給される水のみを水源とし、受水槽の有効容量の合計が10m ³ を超えるもの。
● 水道用語の説明	(1) 有収水量	料金徴収の基礎となった水量。
	(2) 無収水量 (有効無収水量)	料金対象とならなかった水量。（管洗浄用、公衆便所用等）
	(3) 有効水量	メーターで計測された水量。（有収水量＋無収水量）
	(4) 無効水量	配水管からの漏水等、無効となった水量。
	(5) 有収率	年間給水量に対する有収水量の割合を示すもので、給水される水量がどの程度収益につながっているかを示す指標。
	(6) 有効率	年間給水量に対する有効水量の割合を示すもので、給水される水量がどの程度有効に使用されているかを示す指標。
	(7) 供給単価	有収水量1m ³ 当たりについて、どれだけ収益を得ているかを表すもので、次式により算出する。 ○ 供給単価（円/m ³ ）＝給水収益÷年間総有収水量
	(8) 給水原価	有収水量1m ³ 当たりについて、どれだけ費用がかかっているかを表すもので、次式により算出する。 ○ 給水原価（円/m ³ ）＝{経常費用－（受託工事費＋材料及び不要品売却原価＋附帯事業費）}÷年間総有収水量
● 収録の対象期間	平成23年4月1日から平成24年3月31日まで	
● 行政区域内人口（総人口）	「福岡県の人口と世帯（推計）、平成24年4月1日現在」（企画・地域振興部 調査統計課資料）	
● 福岡県庁ホームページへの掲載	平成13年度以降の「福岡県の水道」については、福岡県庁のホームページに掲載しています。 ○ 検索方法 【トップページ→所属で探す→県土整備部→水資源対策課】 ○ アドレス http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f12/search-1-1581-outline.html	

目 次

はじめに	
凡例	
目次	
水道広域圏区分図	

第 I 部 総 論

1 水道の普及状況	1
2 給水の状況	3
(1) 年間給水量	3
(2) 用途別有収水量	4
(3) 平均給水量、最大給水量	5
(4) 月別給水量	7
(5) 有効率、有収率	8
3 取水の状況	9
4 財務の状況	10
(1) 総収益と総費用	10
(2) 費用構成	11
5 水道料金(上水道)	12
6 給水原価と供給単価(上水道)	13

第 II 部 水道の現況

水道普及率の状況図(平成23年度、市町村別)	14
1 広域圏別・市町村別水道普及表(平成23年度)	15
2 上水道事業	19
(1) 事業認可概要	19
(2) 計画と実績	22
(3) 給水実績	25
(4) 計画一日最大取水量	28
(5) 年間取水実績	31
(6) 年間有収水量(上水道)	34
イ 用途別	34
ロ 口径別(口径別給水契約の用途内訳)	37
(7) 管種別管路延長	38
(8) 損益計算書	44
(9) 費用構成	47
(10) 水道料金(家庭用φ13mm、月額)	50

3 水道用水供給事業	53
(1) 事業認可概要	53
(2) 計画と実績	54
(3) 給水実績	54
(4) 計画一日最大取水量	55
(5) 年間取水実績	55
(6) 管種別管路延長	56
(7) 損益計算書	57
(8) 費用構成	57
4 簡易水道事業	58
(1) 簡易水道事業の集計	58
(2) 簡易水道事業の現況	59
(3) 管種別管路延長	61
5 専用水道	63
(1) 専用水道の集計	63
(2) 専用水道の現況(市町村別)	64

第Ⅲ部 水 源

1 貯水施設	66
(1) 位置図(有効貯水量10万m ³ 以上)	66
(2) 貯水施設一覧表	67
2 水利権等一覧表	69

第Ⅳ部 その他

1 水道用水供給事業概要図	72
福岡地区水道企業団	73
福岡県南広域水道企業団	73
京築地区水道企業団	74
田川地区水道企業団	74
山神水道企業団	74
北九州市	74
2 平成23年度国庫補助事業の概要	75
(1) 水道水源開発等施設整備費	75
(2) 簡易水道等施設整備費	76
(3) 水道施設災害復旧費	76
(4) 年度別国庫補助対象事業費の推移	77

福岡県県土整備部水資源対策課水道整備室

〒812-8577 福岡市博多区東公園7番7号

TEL: 092(643)3376

FAX: 092(643)3207

水道広域圏区分図

